



かぶしきがいしゃ くんか
株式会社 薫華 (経営革新承認事例)

スロープ構造に特徴をもつ

ユニバーサルデザイン型津波避難タワー「退避櫓」の開発

企業概要	
企業名	株式会社薫華
代表者名	池谷 道夫
所在地	焼津市宗高1391-5
従業員数	6人
所属商工会	大井川商工会
事業認定日	平成24年2月21日(経営革新事業 計画に係る承認)
問い合わせ先	TEL 054-622-8380



代表取締役
池谷 道夫さん

当社は、平成22年に創業、地域企業の活性化を目的に、企業が開発した特産品や商品などの販路拡大について支援を行ってきました。

第一営業部では「命を守る」をテーマに日々、研究・企画をしており、今回の経営革新の取り組みは、先の東日本大震災での津波の脅威を教訓に、オリジナルの津波避難タワーを開発し、日常の管理サービスと合わせて販売していくものです。

津波避難タワーの現状を見ると、平成16年の中越地震以降、各地の行政等では一部津波避難タワーの建設や津波避難用のビルの指定も進んでいるものの、階段で上がる方式であるため、高齢者や子供、車いす利用者などに配慮されていないのが現状でした。

そこで、緩やかなスロープを配する事で誰もが簡単に一次避難をする事ができる事を目的に、独自の津波避難タワー(商品名:「退避櫓」)を開発し販売を行う事としました。その商品の特徴は次のとおりです。



(御前崎市に完成した津波避難櫓)

①スロープを配したユニバーサルデザイン型仕様

「退避櫓」では、老若男女を問わず利用しやすいように避難階段とスロープで2方向避難の導線を確保。スロープは建築基準法とバリアフリー法の中間である1/10勾配(6m進んで60cm上がる)とし、高齢者、子供、車いす利用者などにも優しいユニバーサルデザイン仕様としました。

②立体駐車場をモチーフとした亀



(県内の特産品なども販売)



(緩やかなスロープ回廊)

甲形やぐら方式

形状は立体駐車場をモチーフとした5層形状とし、緩やかなスロープを廻る事により、高さ12mの屋上避難スペースに到達します。本体は、津波や漂流物からの衝撃を和らげる事を目的に、六角形の亀甲状の鉄骨製やぐら方式とし、海側に向かってやや細く設計されています。

③安全具等の装備

屋上退避スペースでは掴まるための手摺の他、津波の衝撃等で万一手摺から手が離れても大丈夫なように、命綱ベルトや浮輪も常備するなど配慮しています。

津波避難タワーにおいては、日常管理や平常時の利用が課題となる事から、当社では、照明や防犯点検、非常用ボックス内の飲食物や備品の点検、塩害による劣化補修サービスなどを行います。

刻々と変わっていく現代の地球環境の中で、平常時の使用としては、幼稚園や公園などに設置する場合の遊具の併設などを提案し、「退避櫓」の建設促進を行っていきます。自然に対して私達はどう向き合っていけば良いのでしょうか。

今後は、防災意識が高揚している中、本商品を地域の身近な施設として常日頃接してもらう事で、安心につながりいざという時にスムーズに「退避櫓」に避難してもらえればと考えています。

自然災害は忘れた頃にやってきます、日々の努力と備えの大切さを忘れず、本事業の実施により、社会貢献に寄与すると共に売上の向上を目指していきたいと池谷代表取締役は、頑張っています。

また、当社では第2営業部として、県内の若手経営者の支援により、焼津産の豆腐「するが美人」を始めとする特産品・他種も扱っています。